

日之本元極通信

2026年 7月号



氣功教室

日之本元極

「天のまなみ」は 水状三元エネルギーです

天から日之本元極に授けられた恵みの三元エネルギー「天のまなみ」は、使用する場面（人、用途、目的）を瞬間的に察知し適応するように作用します。さらに、使用する人の心の中の願いを悟って働きかける特徴も持っています。

たとえば、膝が痛い時、打撲のなどの急性期は冷やすことが求められるし、慢性的な痛みの場合には、温めることが適切な場合があります。「痛い」という自覚症状だけでは、人は原因も経過も状況も把握できないので、勘や知識を働かせて手当をすることになります。

「天のまなみ」は常にすべての情報を察知していて、膝を湿布しようとするすると水の温度（体感的な）は冷たくなったり、暖かくなったり瞬時に変化します。その判断はいつも適切で驚くばかりです。まさに「神業」なのです。

漢方薬は、症状によって処方されるものではなく「人それぞれの症」に応じて処方されるのが本来で、体質が違えば同じ成分であっても効力は薬にもなり、毒にもなります。

状況によって変化して作用する水状三元エネルギー「天のまなみ」は、この上なくすばらしい天からの「贈り物」なのです。

宇津江四十八滝



三元エネルギーとは、「元氣」「元光」「元音」のエネルギーを指します。無形無象の三元エネルギーをお届けするために媒体として水を使用しています。「天のまなみ」を水と同一視しないでください。

「元音」とは「情報」です。つまり、「元氣」と「元光」のエネルギーが、その時、その状態に合わせて「最適な状態に作用する」という「情報」のもとに届けられるのです。飲用されるその方の情報を受け取って、変化しつつ作用しますから、ご病気の方も、健康増進の目的でも、お使いいただけます。

「極」が天から降ろされてから、すでに3年が経過しています。常に発展、進化する宇宙のエネルギーの昇華に伴って、より魅力ある「極」に生まれ変わっているのです。

3年間のエネルギーの進化は、次々に「極」のバージョンアップを生み出しました。皆様には「極」の変更に応じて、エネルギーの変化をご紹介します。

「極」→「極 ー」→「極 +」→「極 +α」→

「極 春」→「極 初夏」→「極 盛夏」

多くの方々に「極」をお買い求めいただきました。
宇宙の発展の原則に従って、今後も変化し、発展し
続けます。

海のまなみ 極 (塩状三元エネルギー)



「海のまなみ 極」(塩状三元エネルギー)は、
「天のまなみ 極」(水状三元エネルギー)と同時
に、宇宙の神々から日之本元極に授けられました。

これまで「海のまなみ」を皆さんにご紹介する機
会は少なかったのですが「これほど卓越した素晴
らしいエネルギーの商品を、より多くの方々に届
け、活用いただく
ように」と神の導
きが降ろされま
した。



【使用例】

- ・お料理に、幅広くお使いいただけます。
- ・三元エネルギーの作用で、甘く感じたり、辛く感じたりします。
- ・洗濯の時、大さじ 1 杯程度をいれて洗濯をします。匂いが消えて、洗い上がりがすっきりします。入れる量は、お好みに合わせて調整ください。
- ・歯磨き時やその後に、指先や歯ブラシにつけてやさしくマッサージすると、歯ぐきに働きかけ、血行を促し、炎症を穏やかに整えるように三元エネルギーが作用します。
- ・家の敷地に撒くと、邪気を祓い、住居の場が改善されます。

・お部屋の四隅に少量ずつ置いておくと、場を清めることができます。

・お風呂に、大さじ 1～3 杯の「海のまなみ 極」を入れると、身体の中の無形の悪い物を排出します。「天のまなみ 極」や「ひのもと木酢液」を一緒に入れますとさらに作用が高まります。

・寝るときに、枕元に置いています。咳がやわらいだようです。

・ポケットに入れ持ち歩いています。気持ちが落ち着き、スッキリするようになります。

・病院勤めです。白衣のポケットに入れて使っています。「お茶パック」や「紙の封筒」の利用が便利です。

至福のリハビリ

「出毒素（デトックス）風呂」

交通事故により骨盤骨折を患い、自宅療養をしている母(70 代)。退院後、毎日楽しみにしているのが音楽気功「出毒素風呂システム」です。



朝晩、1 日 2 回湯船に浸かって、腰や足を温めています。出毒素風呂に入ると、溜まっていた邪気が抜け、冷えていた手足がぽかぽかになり、固まっていた膝や股関節がほぐれ、動かしやすくなるそうです。

なにより顔色が良くなり、声に張りが出て、とても元気そうです。母も「気分がスッキリする」「体が楽」と、嬉しそうに話しています。

母お気に入りの出毒素風呂は、



- * 天のまなみ 極：100～500ML
 - * 海のまなみ 極：手のひら 1 杯
 - * ひのもと木酢液：キャップ 1～3 杯
- 体調に合わせて湯船にたっぷり入れます。

音楽気功「出毒素風呂システム」の「音」のパワーも加わり、エネルギーいっぱいの至福の時になっています。

毎日の出毒素風呂タイムは、母の順調な回復の大きな助けになっているようです。



「体の石」に「極」を届ける

発熱が続き、立ち上がれなくなった母は、救急車で入院することになりました。「あと 1 日遅かったら危なかった」と言われるほどの状態で、診断は胆嚢炎。胆嚢の管に、石が詰まっているようでした。胆汁を排出するようチューブをつけ、手術日まで待つことになりました。

私は、少しでも元気になるようにと「天のまなみ 極」をこまめに飲むように母に伝えました。

母は半信半疑でしたが、「信じると良いことあるんだよ～。石がなくなるよ～」と伝えました。

1 週間たった頃、なんと胆石が、チューブから排出されたのです。まだ石になる手前のドロドロの状態だったそうで、流れ出たとのことでした。

私は「『極』のおかげだ」と直感的に思いました。願いをもって、「極」を毎日何回も飲んでい



たことが実現したのです。

手術をすることなく、石が身体から出たのは「極」のおかげにちがいないと思っています。今ではすっかり母も「天のまなみ 極」を頼りにしており、毎日のルーティンになっています。



眼を洗って エネルギーを作用させてみたら

「極」で目を洗うと、すっきり気持ちが良いと聞いたので、「眼底出血」と診断されていた母



に「極」を勧めました。母は「極」で目を洗うと気持ちが良いようで、一日 5～6 回こまめに「極」を目に届けていました。

先日、半年ぶりに車を運転した母は「信号がハッキリ見える」と、驚いていました。以前はぼやけて見えなかったり、左右の横側が見にくかったのに、とても見えやすくなったようです。

文章を書く時にも、目を細めて苦労していたのに、今では無理なく文字を書けるようになっています。

良くなることは自覚できないのか「眼！良くなったんじゃない？」と私が声をかけると「ほんと！前より見やすくなっている」と母も視力の変化に驚いていました。「極」で目を洗い、こまめに飲用していることもよかったのだと思いました。

極のエネルギーを 頭頂部に

我が家では「極」を頭頂部にスプレーしており、読書時に使用すると集中して読み進めること

ができます。偏頭痛の時には、頭頂部に加え痛みのある方につけると、痛みが緩和されました。また、



子どもが熱のこもる体質のため、入眠後1～2時間経つとうなされるのですが、寝る前にスプレーすると落ち着いて眠れているようです。

「極」を寝る前に子どもの頭にスプレーするようになってから、就寝中にうなされることがなくなっておりました。しかし、夏休みに入り帰省などでしばらくスプレーするのを止めていたところ、以前のように入眠後うなされて起きてくるようになりました。そこで「極」スプレーを再開すると、その日から起きてくることがなくなりました。これからも継続していきたいと思います。

魔法の水

最近、父と母が風邪気味なので「天のまなみ」と「極」を混ぜたものを飲んでいました。父はそれを「あの魔法の水、入れてくれや」と、とても気に入っている様子です。

犬たちはどうかな？と思い、いくつかあるペット用の水皿のうち、1つだけ「魔法の水」を入れたそうです。すると、「魔法の水」だけ空っぽになっていたそうです。いままでお水が空っぽになったことはなかったのに。

何日か試してみても、やはり「魔法の水」だけ空っぽになります。

犬は2匹いるのですが、いつもの定位置の水ではなく、どうやら2匹ともその「魔法の水」を選んで飲んでいるようです。

火傷に「極」

火傷の後に「極」でパックすると赤みや痛みが引き、水ぶくれにならずに済みました。また、プールでのひどい日焼けにもパックすると赤みや熱がおちつきました。皮が剥けた箇所には、朝晩、「極」をスプレーし、ワセリンで保湿するようにしています。日焼けから一週間ですが、痕がわからないくらいほぼキレイになりました。

「極」を頭皮に

水はお料理に使うと味が整いやすくなります。また、頭皮に使うと髪が伸びるのが早くなる気がします。私が期待する育毛とは少々ズレを感じるもののシャンプー後の抜け毛はめっちゃめっちゃ少なくなりました。

編集後記

「指先まで暖かくなってきました」「体の奥深くまでエネルギーが届く感じがします」「全身の細胞に働きかけている感じがします」など、「まなみ 極」のエネルギーは波動が細かく、心身の奥深くまで作用するとのご感想が多くありました。

人それぞれ気になっていることが違います。夏本番、「極」シリーズを飲用することはもちろん、色々な使い方をして心身にエネルギーを作用させてください。皆さんの使い方やご感想を今後ともご紹介していきたいと思います。



金山巨石群